

2023年7月24日 千葉大学アカデミック・リンク・センター
第2回ALPSセミナー

参加者アンケート（オンライン：Zoom）

当日参加者数： 106名 アンケート提出数： 55件

本セミナーについて、参加者の皆様から寄せられたご意見・ご感想を以下に掲載いたします。なお、原則原文のまま掲載しておりますが、個人名・組織名が特定できないよう事務局で若干の調整をおこなっておりますことをご了承ください。

1. 本日のセミナーの満足度はどの程度ですか。

- ・満足した 44名
- ・まあ満足した 11名
- ・どちらとも言えない 0名
- ・やや不満である 0名
- ・不満である 0名

2. 1. でそのように回答した理由をお書きください。

満足した

- ・ 学生の状況について、なぜそのようになったのかの経緯も含めてご説明があり、今後、どのように連携、協働していけばよいか、とてもわかりやすかったため。
- ・ 自分の勤務先でも問題になっている事柄についてのお話が網羅されていたため
- ・ 本学でも悩んでいる事例についての考え方が紹介されていました。
- ・ ありがとうございます。
- ・ 大学でも個別最適化を行うようになることは驚きだった。
- ・ コロナ禍をへて伺いたいと思っていたことの回答をいただけたようなご講演で、大変勉強になりました。
- ・ 学生の抱える問題を生の声を聴いている先生から伺うことができ、非常に参考になりました。
- ・ 現在の学生支援の難しさについて具体的に理解することができたため。
- ・ ポストコロナの現状を知ることができ大変参考になりました。
- ・ 理論的基盤を伺い、自分の中でも整理が付いたので。
- ・ 現在の学生が置かれている状況や、経年的な変化について、具体的で分かりやすいご説明をいただき大変参考になった。
- ・ 学生支援に関する歴史的経緯・背景を知ることができたこと。コロナ禍後の学生に関する情報を得たこと。2022年の大学設置基準改正との関わりについて知ることができたこと。これらのことから、大変有意義なセミナーであると実感いたしました。
- ・ 他大学の状況と照らして本学の状況を確認できた。
- ・ コロナが完全には収束していない中で大学ではどのような学生支援をしているのかがよくわかったので。
- ・ わかりやすい説明で、学生の置かれている状況がよくわかりました。
- ・ 日々の学生対応において感じていたことが、ご講演の中で出てきており、大変参考になったので。
- ・ 現場経験者が具体的なサジェスションをいただいた。
- ・ とてもわかりやすい説明でした。ありがとうございます。
- ・ コロナ禍が学生に与えた影響を知ることができ、対応の際のヒントをいただけたため。
- ・ 私自身、約30年前に教務事項に関する学生相談等を担当していた時期がありました。現在、50代後半ですが、当時と現在の時代が大きく変わっていることに改めて気づくことができました。後輩職員の育成でも同じことだと思いますが、自分の価値観で話すことはNGで、共感と傾聴が必須なのだということ

とを再確認しました。本音を引き出す、躊躇なく相談するというところに遠慮することが多く、なかなか生きづらい時代なのかと思いますが、子供から大人にどのような時代背景で成長してきたかを知ることも重要だと感じました。

- 現在の学生の心理を分かりやすくお話ししてくださり、ありがとうございました。
- 学生支援の在り方について、過去・現在・これから（コロナ後に顕在化した問題への対処など）を分かりやすく、事例を交えながらお話しくださり、学びが多かったため。
- もやもやしていたことが言語化されたので。
- コロナ禍が今の学生に対してどのような影響を及ぼしているかを理解することができた。対面に形式を戻すというあり方のなか、支援方法を「戻す」という意識でいたが、大きな変化に「対応」していく必要性を強く感じた。
- 勤務先の学内の様子とは違うように感じたので、視野が狭くならないために受講して良かった。
- 発達障害をはじめとする、各種の障害を持った学生をいかに処遇するか、いわゆる合理的配慮の具体化に、各大学が苦労して取り組んでいることがよくわかったため。
- 学生支援について、他大学の状況をお聞きする機会がなかったので、大変参考になりました。
- コロナ禍を経た学生への支援について、学生目線を交えたいへん分かりやすく示唆に富んだお話だった。
- ポストコロナにおける学生の現状を知ることができた。
- 参考になるお話をいただけ、今後の職務に役立てていきます。
- コロナ禍の学生の心理的な状況などについて、とても細やかにお話していただけたので、気づきにつながりました。また、自分から相談ができない学生について、こちらから少しずつでも関係性を築いていく事も大事だとわかりました。
- 学生相談を起点とした学生支援の拡充のヒントを得られたため。
- 修学支援（合理的配慮）に関する甲南大学の様子を知ることができた。また、学生相談室が閉じられた空間になるのではなく、センター化し、複数部署で共有することが今の学生には大事であるとのこと、一人の学生を複数の部署で支援したいので参考になります。
- 勉強になりました。
- 理解しやすくお話いただけたため
- コロナ後の学生の状況をよく知ることができました。
- 自身の所属先でどのように連携や協働を推進するかについて、ヒントを得たり、あらためて心得を確認することができたからです。

まあ満足した

- 学生の現状についてわかりやすくご説明いただき、参考になった
- 学生の支援に関してリアルな現場のお話を伺うことが出来ました。ありがとうございました。
- 新しく知る内容があったため
- 甲南大の事例が良く説明され理解できた。
- 今後の学生さんへの接し方や配慮する点についてとても参考になったため。
- とともに居る支援や、ポストコロナの合理的配慮への対応について、大変参考になりました。
- 休学する学生の対応をすることが業務上多いが、休学を希望する学生の理解につながる内容があった為
- こちら側の問題ですが、仕事しながら受講していたので、聞きたいところで電話がかかってきたりして

聞けなかったところがあって残念でした。

3. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- 学生支援の3階層モデルは、別のセミナーでも聞いたことがありましたが、今日のご説明を聞いて、学生の状況とともに考えることができ、そのようにすることの必要性がよく理解できたと思います。
- 勤務先が医療系大学のため、学生はほぼ全員学内でもマスク着用をしている状態だが、世間の総合大学では1~2割と聞いて驚きました。
- 合理的配慮の考え方
- やはり最後のご質問にあった遠隔授業の合理的配慮に関する対応のご検討については非常に参考になる内容であったと思います。
- 「あいまいな喪失」について
- 組織改編は必要でしょうが、日頃の学生とのコミュニケーションが大切だと思いました。
- あいまいな喪失ということについては、これまでの疑問が払拭されるお話であったと思います。ありがとうございました。
- 情報が多く取り入れられるようになった今、選択肢の幅も広がり、現在の学生のほうが、主体性をもって学業に取り組み自身の将来についても明確なのではないかと思っていましたが、主体性が低下しているのだというデータをみて驚きました。
- 学生支援の在り方について、自分が根本的な誤解をしていたこと。
- phubbingという言葉があることを初めて知った。
- 学生生活についても大学の教員による指導・助言を求める学生が増加していると知り驚いた。
- 大学設置基準の改正との関わり。単なる教職協働ではなく、一歩踏み込んで取り組まなければならないことを知りました。
- 本学ではできていないが、部署を超えた連携が必要である。
- 法律の施行に合わせ準備・考慮しなければならないことがあることを理解した。
- 最近の学生さんが意外にも、「お節介」的なものを実は求めている？というお話が印象的な発見でした。
- 甲南大学は阪神淡路大震災のときから心理的支援をしていてほかの地域の大学よりも経験年数が長いということ。
- 大学としてどのように学生をサポートしていくのか、検討が必要だと考えました。
- コロナ禍から後、助けを求めることが難しい学生さん（あいまいな喪失感を持った学生さん）が増えているという現実。
- 学生の背景と学生支援の教職員のスタンス。
- コロナ禍やデジタル化により、学生気質が大きく変わっていることが理解できました。また、2024年度からの合理的配慮の義務化に向け、大学の方針を明確に示す必要があると改めて思いました。
- デジタルネイティブ世代の「人とともにいる体験」の減少やSNSで複数の顔を使いこなすことで確固たる自己像を築けていない特性が、コロナによってさらに強化されてしまったことが理解できました。
- 学生相談をする際には、相手を大人として見る。「法律上の成人」を意味するものではなく、成長し続けているひとりの人間として、相手と向き合うという意味です。
- 他大のポストコロナの状況をお聞きすることができ、非常に参考になった。学生の主体性の低下について、親、教育機関のかかわることはいいことではありますが、主体性の低下に繋がってしまうことへはもどかしさは、学生への接し方の難しさを痛感した。
- 大学生の置かれている状況は、他大学でも似通ったもので、弊学だけの問題ではないことがよくわかつ

た。

- 学生相談室における「守秘」の考え方が「守秘と連携・協働」に変わりつつある点について、本学の実態と同様であることを知ることができた。
- 専門の調査結果や報告書などの資料を見られたこと。
- 設問 2. とも重なりますが、適正な合理的配慮を各大学が模索中であること。できればキャリアサポートセンターなども統合したうえで、学生の対応窓口を一元化することが望ましいことがわかりました。また、教職員の中途半端な介入が、いかに学生を傷つけてしまうかということもよくわかりました。
- 合理的配慮として、遠隔対応はどうか？ということ、本学でも議論として挙がっております。立ち遅れているのではないかと考えておりましたが、他大学におかれましても、同様に悩まれていることを知り、ほっとした感がありました。
- コロナ禍前とコロナ禍以降で学生支援における連携・共同の意味合いが変わってきていること。
- 支援活動においては、全学的な取り組みが必要であること等。
- 「3 階層モデル」の部分、他の教職員に説明するときにとてもわかり易い概念であると感じました。
- コロナ禍出の配慮と、合理的配慮でのバランスのとり方などを今後、検討していく必要があると感じました。
- 個別性の幅がかなり広いことがわかりました
- 「学生支援に対し意識する」という大切さを改めて確認することができたため
- 図書館を利用する学生と接する中にも、直接・間接的に示して頂いたような背景を感じる場合があります。
- 基本的なことですが、「有機的な『連携・協働』のための必要な心構え」のスライドにある3つの項目はあらためて自身の立場を考えさせられました。特に「連携は〈異文化交流〉、協働は〈多国間共同プロジェクト〉と心得る」はあらためて「心得」たいと思います。

4. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- 「あいまいな喪失」の解消方法
- 学習指導要領には学級経営の上でカウンセリングマインドを求めていましたが、大学教員にも求められるのでしょうか。
- 遠隔授業に関してみなさんが試行錯誤しながら真剣に向き合っていることはわかりましたが、やはりどうしたらいいのかが方向性が定まっていない状況での心配があります。チェックリストの詳細を可能な範囲でご教示いただくと良かったと思います。
- 今後の学生はどうなっていくのか、不安を抱きました。
- 学生支援に大学が割くエフォートや人件費は削減傾向にあるのではないかと考えていたのだが、そうでもないのか？という疑問が残った。
- 良くも悪くもリアルな場面が少なくなっている中、ヴァーチャルな支援については今後どのように展開していくべきか。
- お話しされた大阪大学のオンライン授業のチェックリストが探せません。一つでもチェックがあるとオンライン授業は合理的配慮としないとお話しされていましたリストを見たかったです。
- チャットで最後に質問が書いてありましたが、オンライン授業への希望に対して高石先生がどうお考えなのかを私も知りたかったのですが、ちょうど学生から電話が入り、聞けませんでした。どこかで教えていただけたら嬉しいです。
- 特にありません（同様のもの7件）

5. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。
- ・ 事務職員でも、発達特性に関しての理解、カウンセリングとまではいかずとも傾聴の基本が必要だと思っています。連携、協働に関しては、学生支援ネットワークという組織を形成して対応しています（発展途上だと思いますが）。
 - ・ カウンセリングマインドや非認知能力は大切だと感じました。
 - ・ 支援が必要な学生程、大学との関わりが希薄になり易く、如何に接触機会を取るかに腐心しております。
 - ・ ポストコロナの学生支援を、相談室だけに頼るのではなく、大学全体としてどのように進めていくのか、対応が必要だと考えました。
 - ・ 私のいる学生課においても、窓口に来た学生の質問や要望を正しく把握するのに時間がかかるケースが非常に多いです。年々増えていると感じます。短時間でスムーズに、自分も相手もストレスなく意思疎通するためのスキルを身につけたいと思います。
 - ・ 自分が学生の頃と比べても、大学の対応（窓口対応含）は大分変化したように思うが、まだまだ「マス」として学生を取り扱う場面の方が多い。しかし、これからはもっと個々の学生に応じた対応が教員にも職員にも求められていくように思う。
 - ・ 不勉強なため記載できません。
 - ・ 必要な資質：「学生のために」という姿勢、一人ですべてを背負い込まない客観性、学内ネットワークを構築するコミュニケーション力
 - ・ 立場上、より一層頑張ります。また弊部署で取り組めることがあれば共有してほしいです。
 - ・ 大学教職員のコミュニケーション能力や学生を知ろうとする態度など、個別性に対応でき、学内での教職の連携や関係部署などとの連携が必要だと感じています。
 - ・ 学修支援コーディネーターを必要としている本学ですが、コーディネーターという専門の資格があれば募集も採用も簡単で一番良いと思うのですが。
 - ・ 学生相談室でも学修支援を行っていますが、時に合理的配慮の対象になりにくい、一人では課題ができない学生と一緒に課題をやるということをやっていました。様々な考え方があるかと思いますが、私とやっている間にコツを覚えて一人でできることも増えてきました。
 - ・ どこまで個性を取り入れられるか、取り入れるのが難しいと感じました
 - ・ 組織で動くことの難しさ（早急に対応できず、検討する時間を要すること）を感じる場合があります。
 - ・ やはり、私の部署においても、ライティング支援の面でしょうがい学生支援室との連携が行われておりますが、支援室経由で持ち込まれる相談件数が一時期増加しアドバイザーの負担が懸念されました。そのため支援室に連絡し、その後要支援学生のライティング対応件数は少ない状態です。学内の他の部署で対応していることと思いますが、このような対応に伴う負担の増加は学内全体として大きな課題になりつつあるようです。
 - ・ 特にありません（同様のもの2件）
6. 本日の内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。
- ・ 高石先生のお話を聞いてみたいと思っていて、それが叶い嬉しかったです。今後もしばらく学生支援の状況は難しい場面が多いと思いますが、連携、協働ができればと思います。
 - ・ 高石先生の話は、とても簡潔でわかりやすかった。
 - ・ 高石先生に大いに示唆を頂きました。深謝いたします。

- ・ 今後も引き続き定期的にこの事案を扱ってほしい。
- ・ 短いスパンで世の中が移ろうのをこのところ感じておりますので、またこのような学生さんとの関わり方や接し方をテーマとしたセミナーがあると大変助かります。
- ・ 貴重なご講演をありがとうございました。
- ・ 大学職員としてできること、何かありそうだと感じました。
- ・ 本当に、全教職員が一回は視聴すべき！
- ・ 頼めば個別対応受けて当然という学生や受験生について、感情を排し客観性と合理性で判断することの鍛錬が必要だと思った。
- ・ とても貴重なお話を伺うことができ、大変学ぶことが多かったです。ありがとうございました。
- ・ もっともっとお話を聞きたかったです。
- ・ はじめて聞いたような語もあって、まだ呑み込めていないものがありましたが、今後理解していければと思います。
- ・ 大変勉強になりました、ありがとうございました
- ・ 学生支援に対する、個人個人の温度差を感じるがあります。本日頂いた先生の内容では、意識の大切さを学びました。少しでも学生へ寄り添うことができるように考えて動いていきたいと感じました。
- ・ 本日は有意義なセミナーを企画・運営いただき、ありがとうございました。

7. ご所属について、該当するものを選んでください。

- ・ 千葉大学に所属 7名 ・ 千葉大学以外に所属 48名

8. 身分について、該当するものを選んでください。

- ・ 学生 0名 ・ 教員 11名 ・ 大学職員(図書館職員を除く) 32名 ・ 図書館職員 9名
- ・ その他 3名

9. 千葉大学アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けします。「登録しない」を選択してください。)

- ・ 登録する 16名 ・ 登録しない 39名